

令和4年度仙台管内社会教育拠点施設訪問

塩竈市公民館

「KU-MA 宇宙の学校 at しおがま」

10月8日(土)開催

この事業は、塩竈市・塩竈市教育委員会が主催、認定NPO法人子ども・宇宙・未来の会(KU-MA)/JAXA宇宙教育センターが共催で実施されています。震災復興支援として、2011年から始まり、今年で11回目の開催となります。コロナ禍の影響もあり、全国での実施が減少傾向となっていますが、塩竈市ではオンラインを活用しながら、継続して実施してきました。

本事業は、塩竈市内の小学生にチラシを配布しているほか、近隣の仙台市や多賀城市の社会教育施設にもチラシ等を配置しています。そのため市外から参加している親子もいます。当日は小学校1年生から5年生の18名、保護者16名の参加がありました。

今回のプログラムは、全3回中の2回目、「月と地球、望遠鏡を作ろう」というプログラムです。講師は、世田谷区教育委員会事務局教育支援嘱託員の江崎 士郎氏。当日のスタッフとして認定NPO法人 子ども・宇宙・未来の会五十嵐 晴美氏も支援を行いました。

はじめに、「望遠鏡を作ろう」では天体望遠鏡の歴史や、レンズの特徴についての話がありました。江崎氏は元中学校理科の教員であり、学習指導要領との関連も踏まえながらの説明となりました。親子で2枚のレンズ(老眼鏡と拡大鏡のレンズ)を使い、蛍光灯の光がレンズを通すことでどのように映るかなど、レンズの特徴に触れながら、その2枚のレンズを使って天体望遠鏡づくりに取り組みました。

低学年の児童には若干難しい作業でしたが、親や講師、スタッフの手を借りながら、温かい雰囲気の中で、参加者全員が望遠鏡を作り上げることができました。制作の途中には、どのように見えるのかを予想する場面もあり、参加者の意欲を喚起させる工夫も見られました。最後に天体望遠鏡の仕組みや取り扱い上の注意事項の説明がありました。自分の手で作った望遠鏡を手にして、会場の周りに掲示された太陽や月の写真を「見えた!見えた!」と、楽しい学びのひと時となりました。

参加した皆さんは完成した作品を自宅に持ち帰り、親子で天体望遠鏡をのぞいて、早速夜空の観測をしたことでしょう。

